梅鶯仏教壮年

第20号
2005年
3月6日

総会開催
3月19日（土）
午後6時より

梅鶯仏教壮年会の本年度活動を締めくくる総会を、右記の通り開催いたしますのでご出席下さい。

なお、総会後、懇親会（会費制）も開催いたしますので、ご希望の方はご参加下さい。

§§§

ても同じ言葉を平気で使っていたと知れば、なんとも おこがましく恥ずかしい思いになるのではないでしょうか。

清浄心のかけらも持ち合わせない私たちを心配し、私たちが気付く前から、私たちに願いをかけ続けて下さっているのが阿弥陀様、親様なのであります。

その親の性根を入れたり開眼をさせたりする力が私にあろうはずはなく、むしろ、私たちの眼を開けさせようとかはたらき下さっている阿弥陀様のご恩に報いることこそが真宗門徒としての本来の行いであります。

したがって、浄土真宗では「お性根抜き」とか「お性根入れ」といった言葉は使いません。

その時々のお勤めは全て仏様のご恩を慶び、恵みを讃えるお勤めとして「慶讃法要（きょうさんほうよう）」と呼びます。

例えば「遷仏慶讃法要」「お墓修復慶讃法要」などといった言い方です。

ご住職の説明は私の腑に落ちました。

私の推測もまんざら間違いではなかったことに喜びを感じ、早速「お墓修復慶讃法要」のお願いをいたしました。

ところが、ご住職の「それではお家のお仏壇でお勤めをさせて頂きましょう」との返事に、またまた疑問が湧きました。

ご住職への質問その2

お墓修復のお勤めなのに何故お墓でしないのでしょうか？

ご住職からの返事その2

お墓はけっして先祖を慰める場所でも、願い事をかなえてもらうための祈りの場所でもありません。

今ある私のいのちが、ご先祖のいのちによって恵まれていることを訪ね、悦ばさせていただく縁（えにし）の場所です。

そしていのちの恵みの最大の慶びは、お念仏のみ教えに出会わさせていただいていることにほかなりませんから、ご先祖を偲び、ご先祖とともに仏徳を感謝する場所の中心は、やはり各家庭のお仏壇であるはずです。

したがって、たとえお墓の修復であっても、まずお勤めさせていただく所は、阿弥陀様をご安置するご家庭のお仏壇が相応しいのではないでしょうか。

もちろんその上で修復場所（お墓）でお勤めすることも結構なことだと思います。

ご住職の説明で、お墓の意味や本当に大事なのは、「仏徳に感謝する私たちのこころ」など、仏壮でいつもお聴きしている事の再認識もできました。

！！！